

循環経済新聞

JUNKAN KEIZAI The Recycling Economy Times

4月28日 No.1725

2025年(令和7年)

週刊 月曜発行

発行人 河村 勝志

平成元年9月22日 第3種郵便物承認

購読料 年間 26,500円+税

(定価) 1部本体 600円+税

船橋臨海部に新拠点を竣工

建設汚泥リサイクルを展開

首都圏全域で建設汚泥の収集運搬とリサイクルは、千葉県船橋市TOP GUN(見浪クル事業)に取り組むK 潮見町に位置する臨海 大介社長、047・402・3412が

集運搬と汚泥のCO₂

固定化技術による脱炭

素型リサイクル地盤材

料等の研究開発を進め

るKSJも千葉支店を

市川市から同地に移転

(047・402・6826)し、4月か

ら営業を開始した。

拠点でグループの運

搬・処理・リサイクル

・リサイクル後の運搬

までを一括管理し、首

都圏に点在する8カ所

の処理施設および3カ

所のリサイクル品製造

施設を客先のニーズに

合わせることで、無駄

のない高効率の運搬体

制を整えていく。(関

連記事6面)

KSG/ TOP GUN/
首都圏リサイクル工業/ KSJ千葉支店



新拠点の全景

402・3412)が汚泥の凝集・固化および固化の中間処理施設、隣接地に首都圏リサイクル工業(長谷川達也社長、047・402・3946)が流動化処理土(KSJソイル)の製造プラントをそれぞれ竣工し、3月中に本稼働を開始した。また、グループの収

TOP GUNは、に利用できるよう工夫 高さに合わせて窓を設 大幅に低減される。

首都圏最大級となる日 量4148立方メートル(24 時間稼働、凝集・固化 1440立方メートル、固化 2708立方メートル)の処 理能力を持つプラント を新設した。

高含水汚泥は専用ピ ット槽から凝集処理装 置に送られ、高分子凝 集剤と硫酸バンド(硫 酸アルミニウム)でフ ロックを形成させてか ら固化処理する。

分離した処理水は車 両の洗車や場内散水等

用で3・3メートル、高含水 汚泥用で1・2メートルと違 いがある。

搬入車両を迎える管 理棟は大型車の車窓の

での確認・管理事項が 増強した。

情報もあらかじめデー タ登録されたものを方 新設し、1日当たりの

製造能力も首都圏最大 級の1500立方メートル

に近しい市川・船橋に集 いる。(関連記事1面)

KSG/ TOP GUN/
首都圏リサイクル工業/ KSJ千葉支店

首都圏最大級の処理能力

流動化処理土を製造

セメントミルクと調 約する。

整泥水を混合・攪拌 現地は京葉道路、首

都高湾岸線、東京外郭 環状道路の各高速道I

つ、さらに低炭素型を Cの至近にあり、首都

追求した流動化処理土 圏各地からの広域的な

を製造する。最適な原 建設汚泥の回収が可能

料をグループ各施設 だ。

また、再生土の供給

では、陸送による首都

圏全域の他、船舶で遠 距離地域まで高ロット

で供給できるのも強み

で、資源循環型社会に

向けたリサイクルの著

しい進展が期待されて

いる。(関連記事1面)